

バド人気、子供たちも公式戦に挑戦させたいけど・・・敷居が？

リオオリンピックの日本代表の試合を観て、たくさんの方がバドミントンをしてみたいと思い。親御さんがお子さんを連れて近くのバドクラブに入会し、すっかり親子ともバドにハマった。という方がいると思います。お子さんが最初は空振りばかりだったのが、ドロップ、カット、ヘアピン、クリアが打てると、子供自身も親も公式戦に参加してみたいと思うのは自然の摂理です。公式戦に出るには最低条件として親御さんたちも同様に、簡単なルールを小学生として把握しなければなりません。

公式戦では公認ウェアを着て、ゼッケンを付け審査合格品のラケット（替えラケットも）、タオル、蓋つきドリンクなどを持ってプレイをしなければいけません。公認ウェアとゼッケンは要項に書いていますが、替えのラケットやタオル、ドリンクについては特に書いていません。これは、プレイヤーの自己責任の範疇だからです。競技規則は17条しかなく、イギリス型のスポーツの特徴と言えます。紳士、淑女のスポーツで、良識を持ってプレイをしてほしいという意味です。例えば一人のプレイヤーがラケット2本持ってプレイしてはいけないというのは競技規則には書いていません。あくまで良識を持ってということになります。その、良識の計りが最終決定者の、その大会のレフェリー陣となります。それは、何かあった時レフェリーが動ってくれる大会は良い大会です。悪い大会は、役員が、強いチームの監督やコーチの言いなりになっている大会です。強いチームでも弱いチームでもルールの中では平等であるのが理想です。敷居が高いと感ぜられるかどうかはあなた次第です。

レフェリーの仕事

(公認審判員の資格を持っている)

公認審判員会報 6

常に、冷静な判断をして、競技規則に則った判定を下し管理する、最終的解釈の決定者であり競技役員のご統括。

その権限は強く、プレイヤーの失格、コーチ、観客までも競技場（体育館）から退場を命令できる立場にいます。





レフェリー1名、デピュティレフェリー1名、ローカルアシスタントレフェリー1名 通常の場合、大会規模が大きい場合はレフェリー以外、複数いる場合があります。

クラブ選びのポイントを教えて

目安として、指導者が公認審判員や公認指導員の資格を持っている人が指導している。ところが、ベストです。

まだ、持っていないという方は事務局に問い合わせて公認審判の講習を受け、検定会に合格してください。

資格を持ってなければダメと云うわけではありませんが、知識を持ってなければ、質問もわからない、結局不利になるのは、あなたのチームです。

公認審判員の講習会兼検定会は必ず年に1回以上行われています。

北海道では、どこの地区の講習会兼検定会に出ても良いです。但し、登録の有無を確認するのに、事前に所属している協会と受講する他地区の協会担当者にその旨を連絡してください。

極端な言い方をすれば、制限をしてなければ所定の手続きをすれば、他の県協会の受講にも参加できます。

きちんとしている地区協会なら必ず講習会の日程をHPや総会資料に載せているはず。そのような地区協会の審判委員長から講習をされた方がキチンとしたルールを教えてもらえるはず。



最近では、コーチにふさわしくない服装として、短パンコーチは見られなくなり、またスリッパ、サンダル、裸足も同じ、プレーヤーがコーチに着く場合も以前より長ズボン（七分丈OK）を履き、ルールがだいぶ浸透してきたと思います。さて、上衣はどうでしょうか？規則では、チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウスですが、問題はTシャツです。一種大会ではチームで揃えたチームTシャツ、その大会の記念TシャツはOKになりました。全国大会やその予選会に出るコーチは上衣にも気を付けてください。